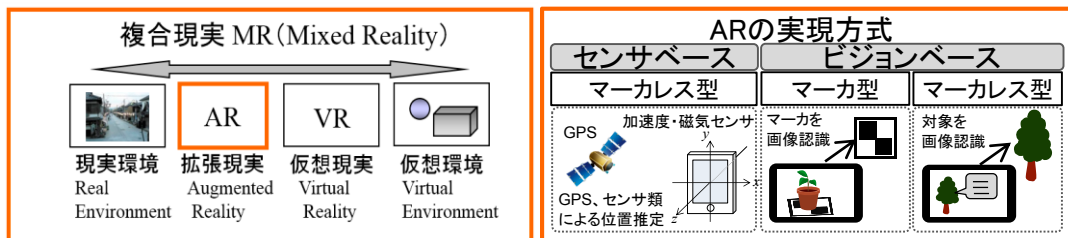


AR(拡張現実)を用いた設備保守支援技術

設備の点検箇所や操作箇所を正確に示すことができます。

背景・目的

- 拡張現実(Augmented Reality :AR)とは、現実風景にコンピュータで生成した「付加的な情報」を合成する技術であり、人間の知覚能力の拡張とも言えます。昨今、電力分野においても携帯デバイスを活用した設備の状態把握や関連情報の表示などの支援機能が検討されており、ARは設備情報や操作手順の「見える化」によって巡視点検等の現場作業をサポートする有用な要素技術です。



特長

- AR実現方式にはマーカ貼付が不要で、汎用性の高い先進的な「マーカレス型」を用いています。
- 機器の任意箇所にピンポイントで情報を重ね合わせ表示できます。
- 市販のスマートフォンやタブレットで動作する可搬性の高い方式です。

用途

- 屋内機器の点検、作業支援（点検箇所同定、設備情報表示、手順誘導）
- 屋外設備の巡視点検（点検箇所同定、設備情報表示、手順誘導）
- 教育研修（技能継承、自律型学習）



屋内機器点検の動作イメージ



屋外機器巡視点検の動作イメージ

開発者の
ひとこと

- ARの本質は「情報可視化」であり、産業界における広範な活用が期待されます。
- マーカレス型ARは基礎検討段階の次世代技術ですが、設備保守の高度化に向け研究開発を進めています。